

トトミア



指定障害者支援施設

さやま園 WAO だより

GOOD DAY SUNSHINE PROJECT!

まやかしの『夢と希望』

当園の個別支援計画は、数年前から利用者の『夢と希望』を叶えるという内容で実施している。何度かこの欄でも取り上げたことがあるが、そのことで、個別支援計画は【できるようになりましょうよ】のような訓練的要素の強いものや、【優しくなりましょうね】的な概念形成が中心のものが見直され、利用者の分かりやすいものになってきた。

利用者が、ディズニーランドに行きたいと言えば年間の外出計画に入れ、親の墓参りがしたいと言えば同行する。うどんが食べたい、ピザが食べたい、○○食べたい、△△食べたい、○○に行きたい、△△に行きたい。あれ買いたい、これ買いたい。

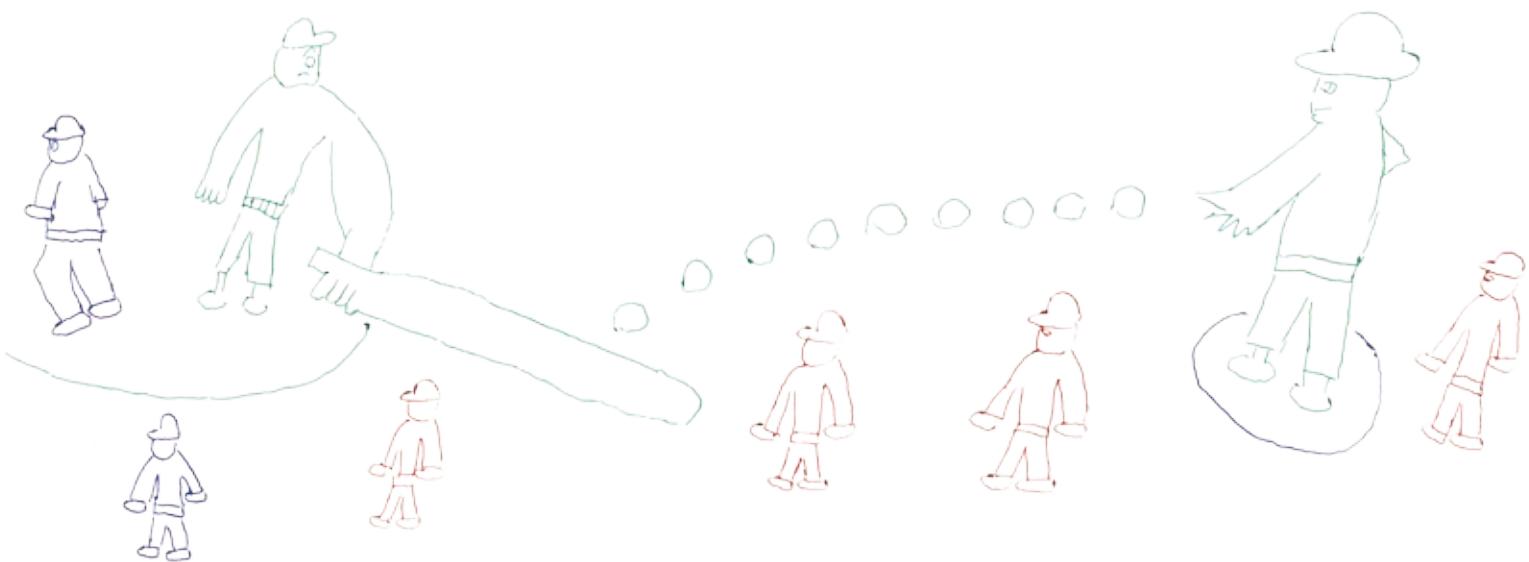
おいおい、何か違わねぇーか？ 食いたい、行きたい、買いたいが夢か？ うどん食うのが夢か？ピザ食う希望が叶つたら、そのあとどうすんだよ？ お前の夢は？と聞かれたら、世界平和かなとかしか答えられない。今更、将来もないし、現実が見えているし、色々条件が厳しすぎるし、オリンピックには出られないし、直木賞も難しそうだし、議員にもマスターにもなれそうにないし、そもそも時間的余裕がないし、体力も気力も衰えてるし、肝心の経済的支えなどありやしないし。

今日は久しぶりに、うまいそばを食べたいね、とか。冬物バーゲンだから目をつけていたコート買っちゃおうかな、とか。その程度。私たちは、これが夢とは言わない。普段の生活だから。

今年の夏は家族旅行を計画してみようとはいうが、近所のドラッグストアへの買い物をあえて計画はしないはず。普段の生活だから。

し、しまった、『夢と希望』を軽々に使いすぎた、か。
さやま園50周年記念のドキュメンタリーが完成した。近く発表される。後半MOさんが、入所当時の気持ちや状況を克明に話す。「泣いて泣いて泣いて泣いて、お母さんと門のところで泣いて、ご飯も食べられなかった・・・。おうちにいたかった。」
MOさんの夢と希望は未だに叶っていない。

園長 宮本浩史





さやま園 よもやま話 PART3

「あの頃は…」座談会

今回も、さやま園歴40数年の大ベテラン 市川さん、中林さん、田丸さんに、大好きな山梨県北杜市明野のどんぐりの家のことを語っていたいただきました。どんぐりの家は、さやま園関係者が利用できる山荘です。

田丸さん：どんぐりの家を建てる前は、守屋先生のまつぼっくりの家を借りていたんだよ。

市川さん：そうそう、玉ねぎ抜きを一生懸命やっていたら泥だらけになっちゃったんだよね。

田丸さん：おかしかったよね。

どんぐりの家を建てる現場を見に行つて、職員が大工さんにお茶を出したりしていたよ。

市川さん：新しく建つたどんぐりの家を見て、広くてみんなで寝られて良いなあと思った。

田丸さん：そうそう、広いなと思った。リンゴもぎもしたけど、中が虫食いだらけでジャムにしたこともあつたね。

中林さん：梅もぎに行つた。梅が当たつて痛かった。

市川さん：竿で叩いて落とすから当たつて痛かった。

なつたのは、バザーで売つたよ。

田丸さん：そうそう、バザー用に明野で畑を借りて、サツマイモを植えていたこともあつたよ。

市川さん：人参も植えてたよね。

田丸さん：早川さんの子供と一緒に畠仕事をしたこと也有った。

市川さん：夜が楽しかった。ゲームしたり、トランプしたりして。ラジオをかけてたね。

田丸さん：いつのまにかテレビが入つてた。晩御飯の後に二次会をして、甘酒飲んだり、お茶会したりして楽しかったな。

市川さん：三泊くらいしてあっちこっち行つたよね。

田丸さん：松本城、善光寺でしょう。黒部ダムにも行つてみたいって言つたら、車で行つちゃつた。

市川さん：田丸さんの伯父さんの家も行つたよね。

田丸さん：上諏訪へね。みんなで行つたね。

どんぐりの家を拠点に、ずいぶん遠くまで遊びに行つていたのですね。

渋柿を職員が食べちゃつて大変だった。カレーを作つた時に、コーキー やヨーグルトなど色々入れてびっくりしたけどおいしかつた。などなど、どんぐりの楽しい思い出話はつきません。

どんぐりの家はみなさんにとって、実家のような、我が家のようなものなのですね。

どんぐりの家の外観



DAY ACTIVITY REPORT

日中活動レポート あおぞらの巻



園内一番西側にあるホールから響く大きな声、いーちにさんし。

熱い夏でも、寒い冬でも気合充分！澄み切った青い空のように清々しく、爽やかな「あおぞら」グループ。座ってるだけなんてつまらない。めいいっぱい体を動かしたい。

今回はそんな人々が集まった「あおぞら」グループの紹介をしたいと思います。

「あおぞら」グループは散歩に行って地域探索したり、牛乳パックや空き缶を集めリサイクルしたり、資源回収や花壇整備など外へ向けたさまざまな活動を行っています。

また、“あそび”と“リハビリテーション”を合体させた“あそびリテーション”というものも行っています。みんなで楽しくあそんでちゃっかりリハビリにもなっている一石二鳥の運動です。



理学療法士 仙洞田先生談… 「“あそびリテーション”は転倒予防を主としています。転倒予防への対策として重要な上半身・肩甲骨のバランスを鍛えます。これは皆、歩行中にふらついたときに、肩と上半身から立ち直って転ばない様に踏ん張るからです。この運動を強化するために、ボール・棒などを使い、肘を身体から離す運動を柱にしています。」

みんなの 声

利用者さん 八木原さん …

「体を動かす事が好きなので、散歩に行けて楽しいです。」

石原さん …

「冬の寒さは辛いけどいい運動になってとても楽しいです。道路を歩いて景色やお花を見るのが好きです。たまにお金が落ちることも…。笑」

職員

清水さん …

「“あそびリテーション”を始めた当初はボールを持つところから苦戦していました。しかし半年も経つと、チームワークも出来て今では肩を上げてボールを投げるまでに上達しています。競争にも力が入っており勝った負けたで大はしゃぎ。そんな姿を見ていると『継続は力なり』とつくづく感じます。また、金曜日は【レクの日】として様々なゲームを行っています。左の写真はそのレクの日に飾りつけをした『桜の木』です。」



ポコラート全国公募
VOL,6 に
さやま園も出展だ !!

ポコラート

アートをきっかけとして、障害のある人も、そうでない人も、それぞれの方法で直接対話ができる場をつくりたい。

Pocorart（ポコラート）とは、障害のある人とつくるアートプロジェクトです。Place of “Core + Relation Art”（障害のある人といの人、アーティストが、核心の部分で相互に影響し合う場）という理念を示す名称です。

今回、千代田区のアーツ千代田 3331 で開催された『ポコラート全国公募』に出展しましたが、残念ながら入選とはいきませんでした。

出展作「さやまの陽そぞぐ～碧のやどり木」は、午後の活動で制作しました。毛糸を巻くことが好きな利用者が作ったたくさんの鳥たち。草原のマットはタッピングです。刺しゅうされた背景の布はみんなで作りました。製作期間 5 カ月の大作です。



News!

映画「百葉の栄 さやま園の日日」完成

『Do you know me?』こんなセリフで始まるCMが昔ありました。ある年齢以上の方は、一回くらいモノマネしたことがあるんじゃないですか?なぜ、こんなフレーズから唐突に始めたかというと「Do you know us?」「さやま園を知っていますか?」って言いたかったから。カルミアをご覧になっている方は、私たちさやま園をご存知かもしれません、一般的には…残念ながら、それほど「さやま園」って知られていません。

でも私たちは知ってもらいたい、そして関心を持っていただきたいのです。さやま園のこと、利用者さんのこと、私たちの日頃のことを。

さやま園創立50周年記念事業として「百葉の栄 さやま園の日日」という映画を制作しました。「犬と猫と人間と2」や「風は生きよという」の監督 宮戸大裕さんに制作していただいたドキュメンタリー映画です。作成したDVDは非売品ですが、近日中に上映会を開催して、多くの方に見ていただく予定です。その時は、色々感じて心搖さぶられちゃってください。必見です。ありのままのさやま園が映し出されています。映像を通して、いろいろな気づきがもたらされる事うけあいです。



知的障害者の入所施設「さやま園」。ここには、あかるく賑やかな日日がある。監督は1年半の撮影期間を、施設の一角に寝起きした。「入所施設ってどんなどこ?」何も知らずにはじまった。51年、ここに暮らす人がいる。心焦がして家族を待つ人がいる。施設の矛盾にとまどい、葛藤する職員たち。家族の本音。境の内の「かれら」と、境の外の「わたしたち」を隔てるものはなに?境の内で、身悶えた。喜怒哀楽に正直で、素敵な人が暮らす場所。ほがらかって、きっとこういうことなのだ。出逢いに行こう、境をこえて。ほら、ここにわたしたちがいる。(「百葉の栄 さやま園の日日」の解説文より)

職員のつぶやき

私は休みの日の大半を一人で過ごしています。一人で過ごす時は、やってみたいけど、人はなかなか誘えないな…と言うことを惜しげもなくしています。

1月は鹿児島に行ってきました。事前に得る情報とプランは極力少なくし、リラックスと少しの緊張を持って、気の向くままに時間を過ごします。鹿児島はたくさんの食事、温泉、自然、街があり、それをするのにうってつけでした。美味しいものを食べたり、温泉に入ったり、路面電車を見つけては乗ったり、知的障害者の施設に行ってみたり、休んだり…。感性のままに何かをする時間を作ると、自分と向き合え、日々過ぎていってしまう時間を少しばかり前向きに過ごす事が出来る気がします。

「相手のことを大切にするには、自分を大切にすること」とどこかで聞いたことがあります。こんな時間を過ごしながら、人から貰うばかりでなく、仕事でもプライベートでも人を大切にできるようになればなあと微かな野望抱いています。

生活支援員 渋谷 美友

発行元：指定障害者支援施設 さやま園

発行責任者：宮本浩史

住所：〒189-0024 東京都東村山市富士見町2-7-13

TEL: 042-391-3275 • FAX: 042-391-3276

編集後記

美しい桜も、あっという間に散り、緑の美しい季節となりました。

今年もさやま園では、お花見弁当を作ってもらいお花見へ出かけるはずでしたが、当日は雨のため残念ながら室内で食べることに。でも、午後には太陽が見え始め、お花見おやつを楽しむことができました。こんなのもゆったりできて、楽しいなと思いました。

新年度が始まりました。フレッシュな顔もちらほら。服も軽くなり、気分も新たになり、春って良いですね。

行事

《報告》1月：新年会・3月：春のつどい

さやま園のホームページができました！

Let's access!

<http://www.sayamaen.com>

